

FD 推進助成（甲）事業〔学部 FD 推進事業〕

## IV. 経済学部

## 令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」申請書

令和5年1月27日提出

申請者氏名 (学部長申請)	経済学部長 星野 広和
課題名	学生アンケートによる新カリキュラムの教育効果

**事業の概要（計画期間全体）（各400字程度）**

**〇目的：現状認識を踏まえた事業の目的**  
 経済学部は、令和2年度より3学科体制から2学科体制に改組するとともに新カリキュラムを始動した。令和5年度は新カリキュラム移行の完成年度となり、1年生から4年生まで新カリキュラムが適用される。令和4年度は、新カリキュラムは3年次開講科目までが対象となっていたため、本事業はその教育効果を把握することを目的として実施した。令和5年度は、令和4年度に本事業から明らかとなった知見も参考にしながら、新カリキュラム完成年度となることを受けて、1年次から4年次までの積み上げの教育効果を把握することを主たる目的としたい。さらに、経済学部では新カリキュラムにおいて卒業論文を必修化した。それに関連して、専門演習を履修していない学生は卒業レポートが必修化されている。こうした必修化における教育効果、学生の声などを把握し、これらのデータに基づき、新カリキュラムの運用上の改善等の知見を得ることを目的とする。

**〇内容：目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。**  
 新カリキュラムが適応された令和2年度以降入学生に以下のアンケートを実施し、教育効果ならびに目標達成度を検証する。  
 (1) 学部必修科目やクラス指定科目など初年次に開講する「学部共通科目」の教育効果ならびに目標達成度等を検証する。  
 (2) 2年次履修の「学科基礎科目」の教育効果ならびに目標達成度等を検証する。  
 (3) 学部の選択必修として強化した専門英語の具体的効果について検証する（対象は当該科目受講生）。  
 (4) 学部として強化したアクティブラーニング科目、キャリア科目の具体的効果を検証する（対象は当該科目受講生）。  
 (5) 卒業論文を必修にした新カリキュラムにおいて、令和5年度の4年生がはじめて適応され、その教育効果を検証する。  
 (6) 4年次に新設した卒業レポートの教育効果について検証する（上記（5）とともに対象は当該科目受講生）。

**〇計画：どのような計画で、当該事業を実施するのか。**  
 上記内容に基づき、対象学生に学部独自のアンケートを実施し受講生の評価を収集する。アンケートの実施人数（母数）は令和2年度以降の入学生（1年生から4年生）およそ2,200名となる。回答率を高めるために各学年の「演習科目」での周知やWebアンケートへの移行など工夫を行いたい。アンケートの集計においては、専門業者に委託する。集計においては、学科・学年・入試形態・演習加入の有無等さまざまな軸でクロス集計を行い、その結果に基づき、経済学部の教務委員会を中心に現状把握と今後の改善点について検討を行い、次年度以降の授業運営に反映させる。

**〇点検・評価：本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。**  
 上記内容と計画に基づいて実施したアンケートの結果は、教務委員会を中心に報告書にまとめる。作成した報告書は学部執行部と学部全教員に配布し、意見交換や点検・評価が可能な体制を設ける。アンケートの質問項目自体の検証もあわせて行い、翌年以降にデータを蓄積する上での評価・整備を行う。また、学部共通科目ならびに学科基礎科目のうち、複数の教員で担当している科目については、担当教員間で情報共有を行い、点検・評価を行う機会を設ける。

**〇改善・期待される効果：今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。**  
 初年次教育から4年次までの新カリキュラムにおける系統履修等の教育効果を検証することで、新カリキュラムの当初の目的がどの程度達成できているか、今後の運用上の改善点に関する知見を得ることができる。個別科目の教育効果に合わせて、系統履修の効果ならびに学部への帰属意識や学修の主体性、演習への参加意欲、キャリア形成への影響などこれまで定量的に把握してこなかったデータも獲得し、今後の学部運営の知見を得る。

**〇汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。**  
 新カリキュラムの学部共通科目や学科基礎科目で導入されているグループワークや課題解決型授業など、アクティブラーニング等の教育効果に関する教育効果、ならびに卒業論文必修化に関する調査結果は、他学部の科目設計においても参考になると考える。

**〇経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。**  
 業務委託費：アンケートの作成から集計、分析、分析結果の報告の依頼を行う。業務委託費については、本年度同様に業確定後に複数の業者に見積もりを依頼する予定である。

事業の実務担当者 (教員)	大西 祥恵（経済学部/教授）
------------------	----------------

## 令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」に係る所要経費内訳明細表

課 題 名		学生アンケートによる新カリキュラムの教育効果	
<b>教育研究経費支出内訳</b>			
小 科 目	積 算 内 訳		
	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
消 耗 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円未満)		0 円	
用 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円以上20万円未 満)		0 円	
図 書 資 料 費		0 円	
印 刷 製 本 費		0 円	
通 信 運 搬 費		0 円	
他 一 般 旅 費		0 円	
賃 借 料		0 円	
手 数 料 ( 報 酬 )		0 円	
労務委託費（電算）	アンケート集計委託料	700,000 円	業者へのアンケート票入力・集計・分析業務委託
労務委託費（ ）		0 円	
労務委託費（ ）		0 円	
計（A）		700,000 円	
<b>アルバイト関係支出（記入の仕方に注意）</b>			
人 件 費 支 出		0 円	別紙（様式3）に記入のこと
計（B）		0 円	
<b>設備関係支出（1個又は1組の価格が20万円以上のもの）</b>			
教育研究用機器備品		0 円	別紙（様式4）に記入のこと
計（C）		0 円	
<b>所要経費(A+B+C)</b>		<b>700,000 円</b>	

以上ない科目等は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。  
 機器備品・用品の購入計画がある場合には、見積書・カタログ等購入計画物品を特定できる資料を添付してください。  
 大学のルール等により、申請した科目とは異なる科目への振替などが出来る場合があります。

## 令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」経費執行計画表

課 題 名	学生アンケートによる新カリキュラムの教育効果
-------	------------------------

教育研究経費支出内訳			
小 科 目	執 行 計 画		
	執 行 時 期	金 額	備 考
消 耗 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円未満)	上期・下期・その他	0 円	
用 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円以上20万円未 満)	上期・下期・その他	0 円	
図 書 資 料 費	上期・下期・その他	0 円	
印 刷 製 本 費	上期・下期・その他	0 円	
通 信 運 搬 費	上期・下期・その他	0 円	
他 一 般 旅 費	上期・下期・その他	0 円	
賃 借 料	上期・下期・その他	0 円	
手 数 料 ( 報 酬 )	上期・下期・その他	0 円	
労務委託費(電算)	上期・○下期・その他	700,000 円	アンケート集計委託料
労務委託費( )	上期・下期・その他	0 円	
労務委託費( )	上期・下期・その他	0 円	
( )	上期・下期・その他	0 円	
計(A)		700,000 円	
<b>アルバイト関係支出(記入の仕方に注意)</b>			
人 件 費 支 出	上期・下期・その他	0 円	
計(B)		0 円	
<b>設備関係支出(1個又は1組の価格が20万円以上のもの)</b>			
教育研究用機器備品	上期・下期・その他	0 円	
計(C)		0 円	
<b>所要経費(A+B+C)</b>		<b>700,000 円</b>	

※執行時期が「その他」の場合は、備考欄に具体的な時期を記載してください。

※ご不明な点は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。

## 令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」中間報告書

令和5年9月12日提出

事業申請者 (学部長申請)	経済学部長 星野広和	
課題名	学生アンケートによる新カリキュラムの教育効果	

## ■事業の進展状況

令和5年4月から報告時点（9月末）までの当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」「役割分担」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください（枠内書式自由）。

◎ なお、学部教員全員を対象として検討会等を実施した場合には、その日時と参加人数を明記してください。

事業は順調に進行している。

本年度の事業は、昨年度に続き、令和2年度以降の新カリキュラム適応の経済学部学生にアンケートを実施し、新カリキュラムで整備した専門科目の教育効果ならびに目標達成度等を検証するものである。

現在、昨年度の質問項目と調査結果を見直し、修正や追加・削減など改善すべきところの洗い出しを学部教務委員会を中心に行っているところである。

調査は予定通り、後期に行う予定である。昨年は1月の実施となり、慌ただしくなってしまったので、本年は12月に調査が完了するように実施計画を立てている。

## ■事業に関する変更点

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「役割分担」「点検・評価」「改善（期待される効果）」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください（枠内書式自由）。

計画、役割分担、ならびに点検・評価等において、変更が生じる予定は今のところない。

## ■経費の執行状況 ※いずれかに○を付けて「その理由」を記述してください。

当初計画どおりの見込み

減額補正を申請する見込み

\* その理由（減額補正を申請する場合は、必ず記入してください。）

事業実務担当者名（教員）	大西 祥恵（経済学部／教授）
--------------	----------------

國學院大學 学長 殿

学部長： 星野 広和 (印省略)

## 令和5年度「FD推進助成(甲)学部FD推進事業」事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	経済学部
事 業 名	学生アンケートによる新カリキュラムの教育効果
実務担当者名	大西 祥恵
<b>事 業 の 概 要</b>	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、申請時に提出した「学部FD推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>経済学部では、令和2年度より3学科体制から2学科体制に改組するとともに新カリキュラムを始動した。令和5年度は新カリキュラム移行の完成年度となり、1年生から4年生まで積み上げの形の新カリキュラムが適用された。関連して、新カリキュラムによる卒業論文の必修化が行われており、実際に必修化された卒業論文を執筆する4年生が初めて出る年度であった。本事業の目的は、新カリキュラムの教育効果、学生の声などを把握し、これらのデータに基づき、新カリキュラムの運用上の改善等の知見を得ることである。</p> <p>アンケートの主な検証項目は、申請時は次の6点であった。</p> <p>(1)学部必修科目やクラス指定科目など初年次に開講する「学部共通科目」の教育効果ならびに目標達成度等を検証する。</p> <p>(2)2年次履修の「学科基礎科目」の教育効果ならびに目標達成度等を検証する。</p> <p>(3)学部の選択必修として強化した専門英語の具体的効果について検証する(対象は当該科目受講生)。</p> <p>(4)学部として強化したアクティブラーニング科目、キャリア科目の具体的効果を検証する(対象は当該科目受講生)。</p> <p>(5)卒業論文を必修にした新カリキュラムにおいて、令和5年度の4年生がはじめて適用され、その教育効果を検証する。</p> <p>(6)4年次に新設した卒業レポートの教育効果について検証する(上記(5)とともに対象は当該科目受講生)。</p> <p>アンケート調査は、令和5年度が新カリキュラム移行の完成年度であったことから、経済学部の1年生から4年生までを対象として実施した。</p> <p>以上より、事業の推進においては、当初の計画通り、令和5年度後期に実施することができた。</p>	

## 事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、**本年度実施した推進事業の結果**について、申請時に提出した「学部 FD 推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

本事業を実施し、当初の目的は十分に達成できたと考える。その理由は、事業の目的であった新カリキュラムの教育効果を学科別、学年別に、学生生活満足度、カリキュラム全体の満足度、カリキュラム全体の評価理由、授業科目の個別満足度、授業評価における重視項目、受けたいと思う授業形式、学習目標の達成度、学習目標の達成度評価理由、必修科目数、履修条件科目数、カリキュラムについての要望・改善点にかんする実態を把握することができたからである。こうした教育効果にかんする現状や、学生の実際の声を把握することができた意義も大きい。

また、令和4年度に引き続きアンケート調査を実施することができたため、時系列での分析についても行うことが可能となった。

これらのデータに基づき、新カリキュラム運用上の改善点などについてより一層詳細な知見を得ることができた。

本報告書作成の直前まで、アンケートの分析を行っていたことで、現時点では、アンケート結果を学部教育全体には共有できていない。まずは、学部教務委員会で共有・分析するとともに、機会を設けて学部教員善意への共有と検討を行っていききたい。

## 今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である／ないと判断した理由を、これまでの学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

申請時に提出した「事業申請書」の「改善・期待される効果」では、「初年次教育から4年次までの新カリキュラムにおける系統履修等の教育効果を検証することで、新カリキュラムの当初の目的がどの程度達成できているか、今後の運用上の改善点に関する知見を得ることができる。」など記述していた。

昨年度と同様に、初年次教育を中心とした学部コア科目、専門教育の英語、アクティブラーニング、キャリア科目の教育効果の実態を把握することができた。

それに加えて、初めて必修化の年度に達した、4年生の卒業論文に関連して専門演習の教育効果についてのデータを得ることができた。

本事業で得られた成果を、今後学部教務委員会で共有、分析するとともに、機会を設けて学部教員への共有、分析することを通して、次年度以降の各科目の内容や卒業論文の教授方法の改善などに活かしていく。

本事業で見いだされた課題のなかには、とくに科目によって学生の学びと満足度が低い内容もあるため、その実態を精査することで次年度以降に修正などの対応をしていきたい。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である(ない)と判断した理由を、これまでの当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

申請時に提出した「事業申請書」の「汎用性（波及効果）」の項目では、「新カリキュラムの学部共通科目や学科基礎科目で導入されているグループワークや課題解決型授業など、アクティブラーニング等の教育効果、ならびに卒業論文必修化に関する調査結果は、他学部の科目設計においても参考になると考える。」と記載していた。

アンケートでは、経済学部の専門科目に関する項目のみならず、グループワークや専門演習にかんする満足度にかんする結果などについても項目を設けていた。さらに、専門演習に加入している学生の満足度が高い結果が出ており、こうした実態は学部学科を超えたカリキュラムに活かしていくことが可能であると考えられる。

**【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？**

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

提出した「事業申請書」「経費内訳明細表」によって、「労務委託費（電算）」にアンケート集計委託料を 700,000 円で申請をさせていただいていた。

業者の相見積もりを実施したこともあり、実際には予算金額を大幅に削減することができた。

**【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。**

成果報告会では、アンケート調査結果に基づいて、学年別、学科別に教育効果について説明していく。昨年度のデータも活用して、時系列での変化に着目した分析の結果についてもお示しする。以上を通して、新カリキュラムの評価できる点と改善すべき点を明らかにし、調査結果を今後どのように活かしていくかについて述べていく。

令和5年度  
学部FD推進事業「成果報告会」

【経済学部】学生アンケートによる  
新カリキュラムの教育効果

令和6年3月11日

経済学部  
大西祥恵

1

## 本事業の目的

経済学部は、令和2年度より3学科体制から2学科体制に改組するとともに新カリキュラムを始動した。令和5年度は新カリキュラム移行の完成年度であった。

本事業の目的は、**新カリキュラムの教育効果、学生の声などを把握し、これらのデータに基づき、新カリキュラムの運用上の改善等の知見を得ることである。**

1

2

## アンケートの検証項目

以下科目群の教育効果を検証する。

- (1) 初年次科目 (1年生専門科目)
- (2) 学科基礎科目 (2年生)
- (3) 系統履修 (全)
- (4) 専門英語 (2・3年生)
- (5) アクティブラーニング科目 (全)
- (6) キャリア科目

1

3

## アンケートの検証項目

科目群の評価に加え、以下の満足度を調査。

- (7) 授業評価で重視する項目
- (8) 受講したい授業形式
- (9) 学習目標の達成度
- (10) 科目数の適切性
- (11) 学生生活全体の満足度
- (12) 時系列分析

1

4

## アンケートの対象

### 【新カリキュラム適応】

- 経済学部1年生(経済学科・経営学科)
- 経済学部2年生(経済学科・経営学科)
- 経済学部3年生(経済学科・経営学科)
- 経済学部4年生(経済学科・経営学科)

### 【旧カリキュラム適応】

- 令和元年度以前入学者(経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科)

1

5

## 調査概要

- 調査方法: K-SMAPY II を利用したアンケート
- 調査対象: 経済学部1～4年生 (2,175人に配信)
- 実施期間: 2024年1月11日(木)～2024年2月5日(月)
- 回収数: 342票 (回収率: 15.5%)

- 合計 342名 (2022年度: 446名)

#### 【学年】

- 1年生 80名 (179名)
- 2年生 105名 (118名)
- 3年生 89名 (83名)
- 4年生 68名 (66名)

- 2年生の比率が3割で最も高い。
- 学科別で学年の構成比に大きな差はみられない。

単位: %		1年生	2年生	3年生	4年生
全体	n= (342)	23.4	30.7	26.0	19.9
学 経済学科	(175)	20.0	32.6	26.9	20.6
科 経営学科	(167)	26.9	28.7	25.1	19.2

#### 【学科】

- 経済学科 175名 (230名)
- 経営学科 167名 (192名)
- 経済ネットワーク学科 (23名)

1

6

## 調査結果

### ①科目群別にみる満足度

7

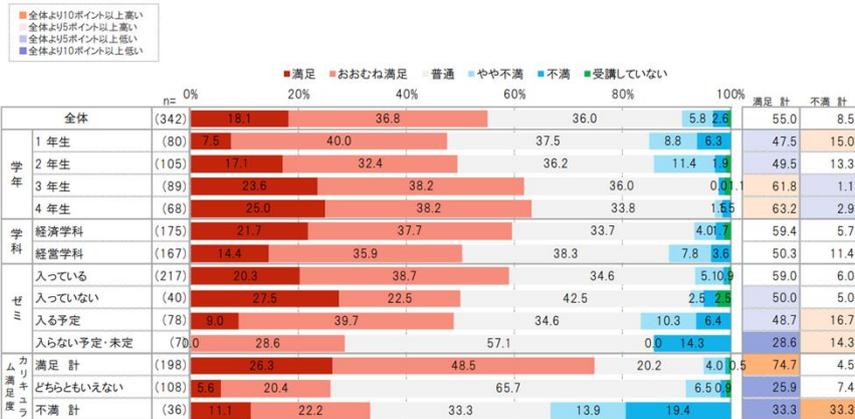
## 初年次科目

### 授業科目の個別満足度 | 学部コア科目

■ 学部コア科目の満足度は、全体で「満足」18.1%、「おおむね満足」36.8%と合わせて55.0%が肯定的である。

- ・ 学年別で見ると、3年生と4年生で満足度が高くなっている。
- ・ 学科による大きな差はみられない。
- ・ ゼミに入っていないと入る予定の学生の満足度がやや低い。
- ・ カリキュラム満足度が高い学生で満足度が高い。

Q 8-1 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。| 学部コア科目（経済理論入門、経営入門等の入門科目）



8

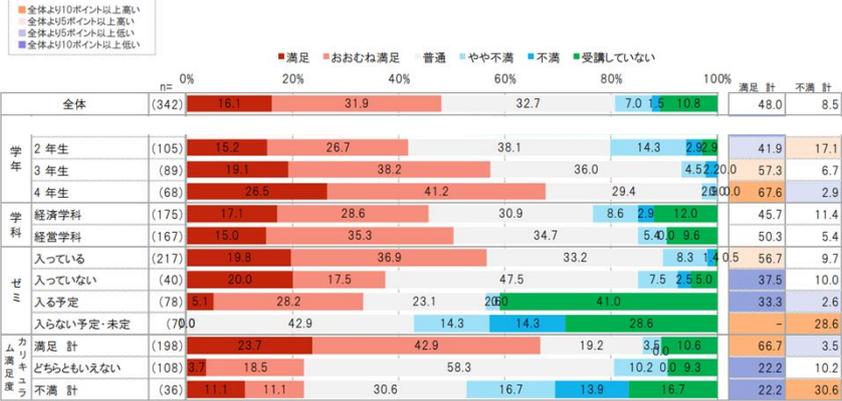
## 学科基礎科目(2年生以上)

### 授業科目の個別満足度 | 学部基礎科目

■ 学部基礎科目の満足度は、全体で「満足」16.1%、「おおむね満足」31.9%と合わせて48.0%が肯定的である。

- 学年別で見ると、3年生と4年生で満足度が高くなっている。1年生では「受講していない」が42.5%を占める。
- 学科による大きな差はみられない。
- ゼミに入っている学生で満足度が高く、現在ゼミに入っていない学生(ゼミに入っていない、入る予定)の満足度が低い。
- カリキュラム満足度が高い学生で満足度が高い。カリキュラム満足度が低い学生では、不満計が満足計を上回る。

Q 8-2 あなたは、以下の科目について、どの程度満足していますか。| 学部基礎科目(経済:マクロ経済、ミクロ経済、財政の基礎、金融の基礎、経済史の基礎等、経営:経営戦略、経営学史、簿記の基礎、簿記と財務報告、マーケティングの基礎等、経済ネット:調査研究入門、現代日本経済等)



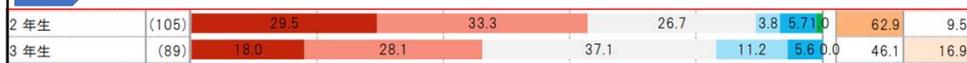
9

## 専門英語科目(2・3年のみ、4年は旧カリ)

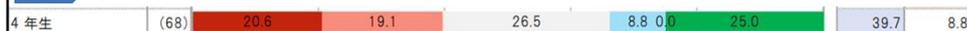
- 学科による大きな差はみられない。
- ゼミに入る予定の学生の受講率が低い。
- カリキュラム満足度が高い学生で満足度が高い。

■ 満足 ■ おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 受講していない

新カリ



旧カリ



1

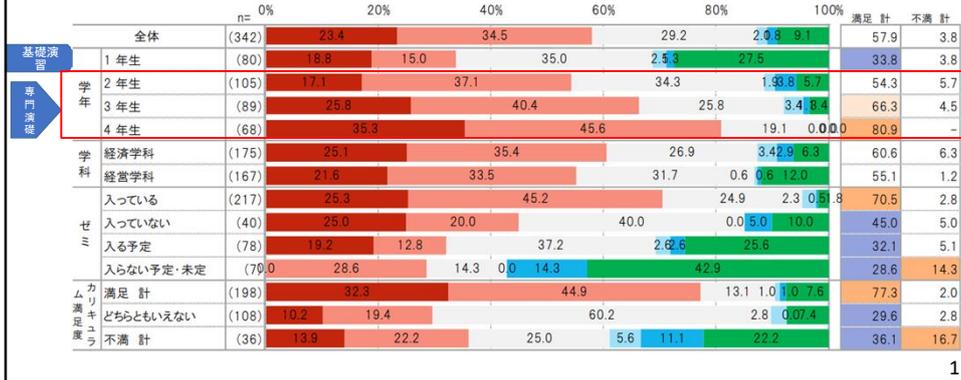
10

## 専門演習科目(ゼミ・基礎演習)

- 専門演習科目の満足度は、全体で「満足」23.4%、「おおむね満足」34.5%と合わせて57.9%が肯定的と、7つの科目の中で最も満足度が高い。
  - ・ 学年別で見ると、学年が上がるにつれて満足度も高くなり、4年生では80.9%の満足度。
  - ・ 学科による大きな差はみられない。
  - ・ ゼミに入っている学生の満足度が高い。
  - ・ カリキュラム満足度が高い学生で特に満足度が高い。

Q 8-4 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。| 専門演習科目

■満足 ■おおむね満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■受講していない



11

## アクティブラーニング科目(3科目)

- アクティブラーニング科目の満足度は、「受講していない」が55.3%と半数以上を占める。
  - ・ 学年別で見ると、3年生の受講生が最も高く、満足度も高い。
  - ・ 学科で見ると、経営学科の受講生が多く、満足度も高い。
  - ・ ゼミに入っていない学生の受講率が高いが、満足度は低い。
  - ・ カリキュラム満足度が高い学生も半数以上が受講していない。受講者の満足度は高い。

Q 8-5 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。| アクティブラーニング科目(ビジネスゲーム、ビジネスデザイン、ビジネスソリューション)

■全体より10ポイント以上高い  
■全体より5ポイント以上高い  
■全体より5ポイント以上低い  
■全体より10ポイント以上低い



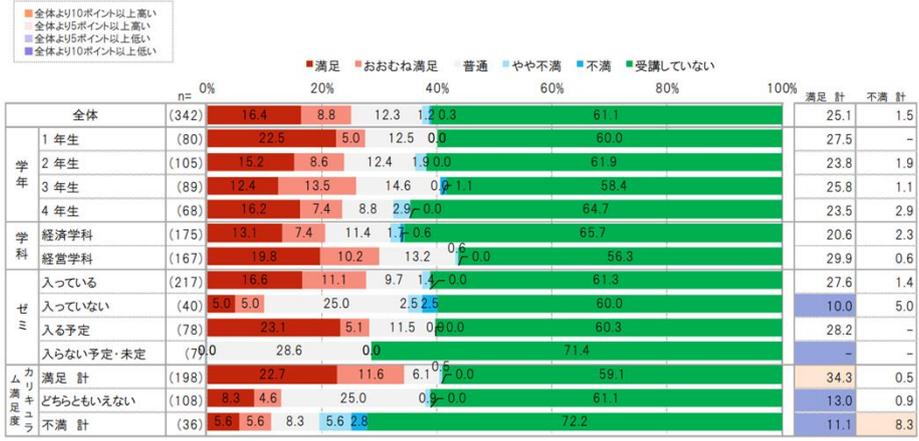
12

## リーダーシップ科目(2科目)

■ リーダーシップ科目の満足度は、「受講していない」が61.1%と半数以上を占める。

- 多くの層で「受講していない」が60%前後である。
- 受講している学生の満足度も属性による大きな差はみられない。
- カリキュラム満足度が高い学生も半数以上が受講していない。受講者の満足度は高い。

Q 8- 6 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。| リーダーシップ科目(リーダーシップの基礎・リーダーシップ応用)



13

## キャリア関連科目(3科目、2年生以上)

■ キャリア開発科目の満足度は、「受講していない」が60.2%と半数以上を占める。

- 学科による大きな差はみられない。
- カリキュラム満足度別で見ると、満足度が高い学生でも受講率は低いが、満足度は高い。また、不満の学生でも受講率は低い。不満計が満足計を上回っている。

Q 8- 7 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。| キャリア開発科目(院友に学ぶキャリア、ビジネスインターンシップ等)



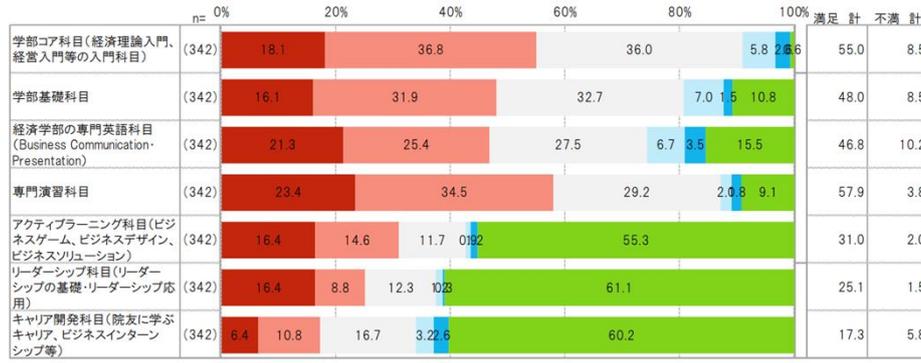
14

## 科目群ごとの比較(全体)

- 授業科目の個別満足は、専門演習科目と学部コア科目が全体で半数以上が満足している。
- 学部基礎科目、経済学部の専門英語科目は、満足度が半数以下であるが、「受講していない」が10%強みられる。
- また、アクティブラーニング科目、リーダーシップ科目、キャリア開発科目は、それぞれ「受講していない」が半数以上を占める。

Q 8 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。

■満足 ■おおむね満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■受講していない



15

## カリキュラム全体の満足度

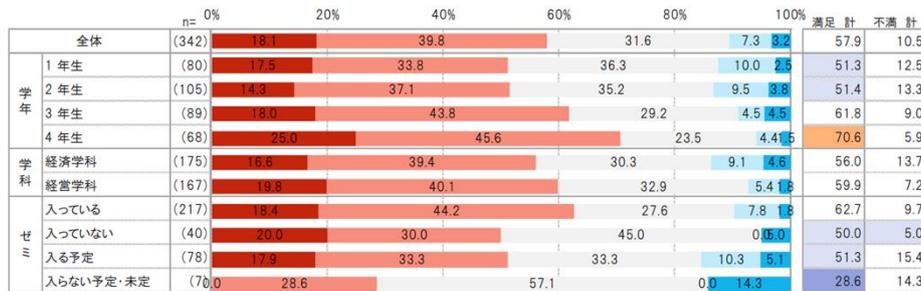
- 経済学部のカリキュラム全体の満足度は、全体で「満足」18.1%、「おおむね満足」39.8%と合わせて57.9%が肯定的である。

- ・ 学年別で見ると、学年が上がるほど満足度が高くなる傾向にある。
- ・ 学科による大きな差はみられない。
- ・ 現在ゼミに入っていない学生(ゼミに入っていない、入る予定)の満足度が低い。

Q 6 あなたの経済学部のカリキュラムについて、全体としてどのように思いますか。

■全体より10ポイント以上高い  
■全体より5ポイント以上高い  
■全体より5ポイント以上低い  
■全体より10ポイント以上低い

■満足 ■おおむね満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



16

## 調査結果

### ②授業評価で重視する項目と 学習達成度

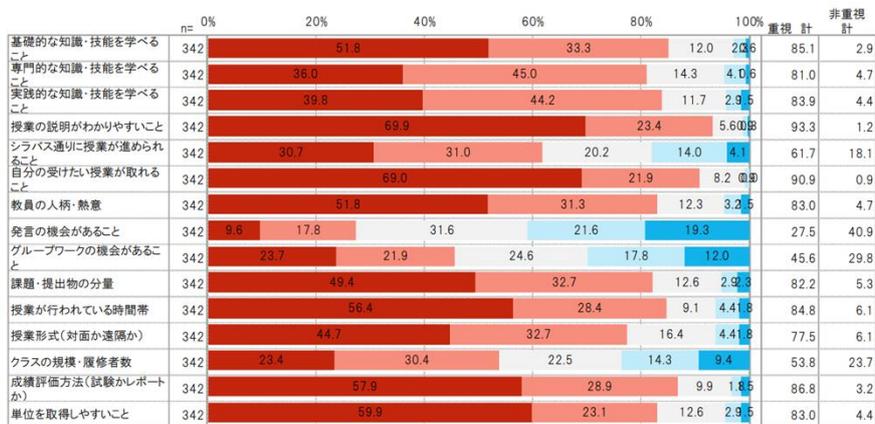
17

## 授業評価で重視する項目

- 授業評価における重視項目は、授業の説明がわかりやすいこと、自分の受けたい授業が取れることが90%以上と重視度が高い。
- 次いで、成績評価方法、基礎的な知識・技能を学ぶこと、授業が行われている時間帯、実践的な知識・技能が学べること、教員の人柄・熱意、単位を取得しやすいことなどが80%台。
- 一方、発言の機会があることは、重視度が低い。

Q 9- 授業の満足度を評価する際、あなたは以下の項目をどの程度重視しますか。

■ 重視する ■ やや重視する ■ どちらでもない ■ あまり重視しない ■ 重視しない

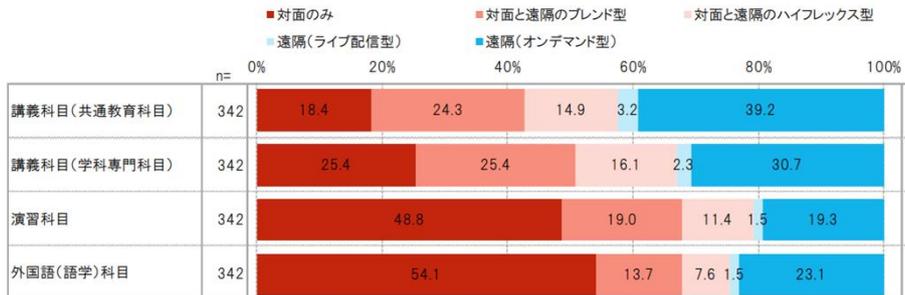


18

## 受講したい授業形態

- 受けたいと思う授業形式は、演習科目、外国語(語学)科目は「対面のみ」の意向が強い。
- 講義科目の授業形式は、共通教育科目、学科専門科目いずれも、「遠隔(オンデマンド型)」を希望する声が高い。

Q 10 あなたは、以下の科目をどの授業形式で受けたいと思いますか。

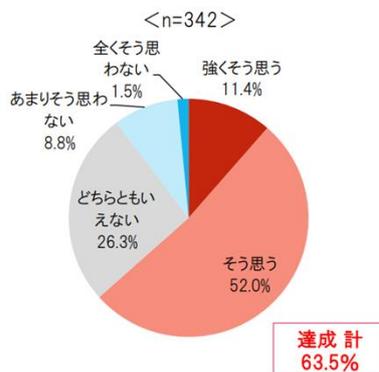


19

## 学習目標の達成度

- 学習目標の達成度は、「強く思う」「そう思う」を合わせて63.5%が目標を達成していると評価している。

Q 11 あなたは、これまで履修した授業について学習目標を達成できていると思いますか。



1

20

## 調査結果

### ③新カリキュラムの科目構成に関する評価

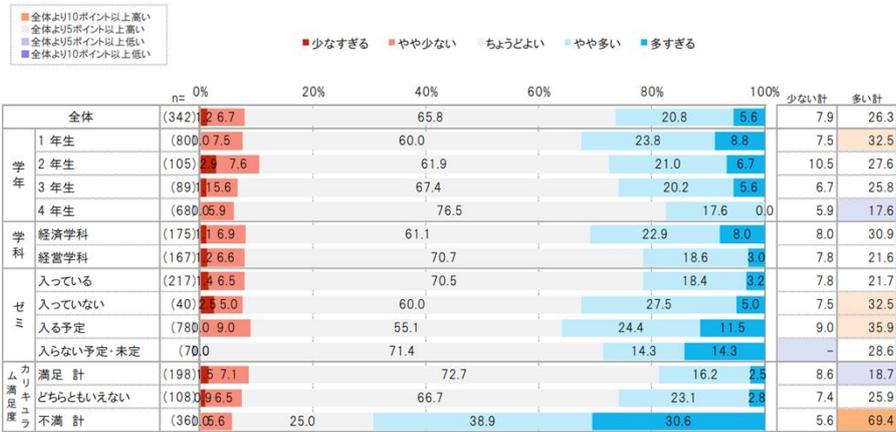
21

## 「必修科目」の科目数

- 必修科目数について「ちょうどよい」が65.8%。多い計が26.3%と少ない計を上回る。

- ・ 学年別で見ると、1年生で多い計が相対的に高い。
- ・ 学科による大きな差はみられない。
- ・ 現在ゼミに入っていない(入っていない、入る予定)学生は、多い計が相対的に高い。
- ・ カリキュラム満足度が高い学生ほど「ちょうどよい」が高い。不満の学生では多い計が約70%を占める。

Q 13 あなたの所属学科の必修科目数についてどのように思いますか。

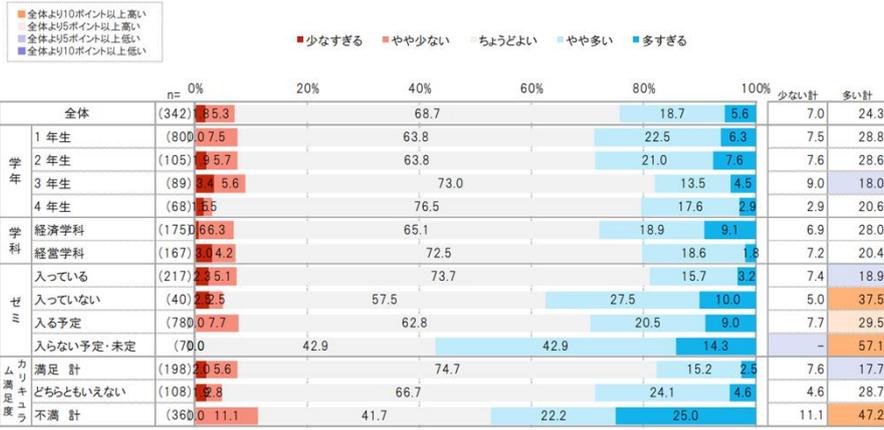


22

## 「履修条件科目」の科目数

- 履修条件科目数について「ちょうどよい」が68.7%。多い計が24.3%と少ない計を上回る。
  - ・ 学年別でみると、3年生で「ちょうどよい」が相対的に高い。
  - ・ 学科による大きな差はみられない。
  - ・ 現在ゼミに入っていない(入っていない、入る予定)学生は、多い計が相対的に高い。
  - ・ カリキュラム満足度が高い学生ほど「ちょうどよい」が高く、不満の学生では多い計が半数近くを占める。

Q 14 履修条件科目(系統履修のため単位修得が求められる科目)の科目数についてどのように思いますか。

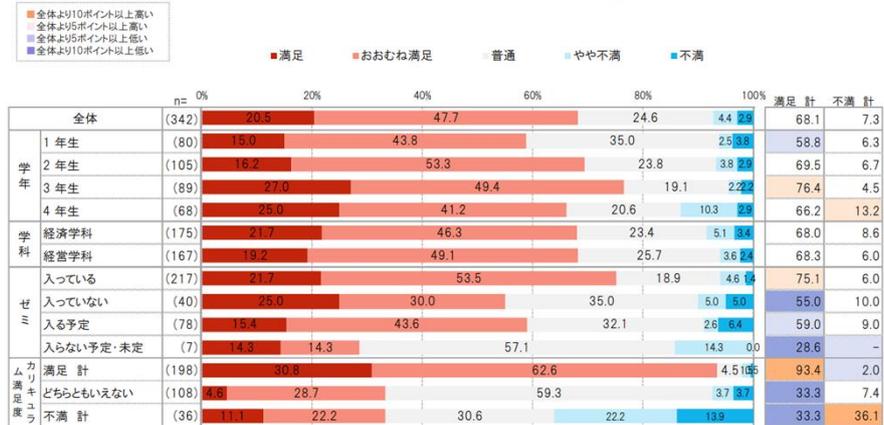


23

## 学生生活の満足度

- 学生生活の満足度は全体で「満足」20.5%、「おおむね満足」47.7%と合わせて68.1%が肯定的である。
  - ・ 学年別でみると、3年生での満足度が他の学年より相対的にやや高い。
  - ・ 学科による大きな差はみられない。
  - ・ ゼミに入っている学生で満足度がやや高くなっている。
  - ・ カリキュラム満足度別でみると、満足度が高い学生で学生生活満足度も高い。

Q 5 あなたは、國學院大学での学生生活にどの程度満足していますか。

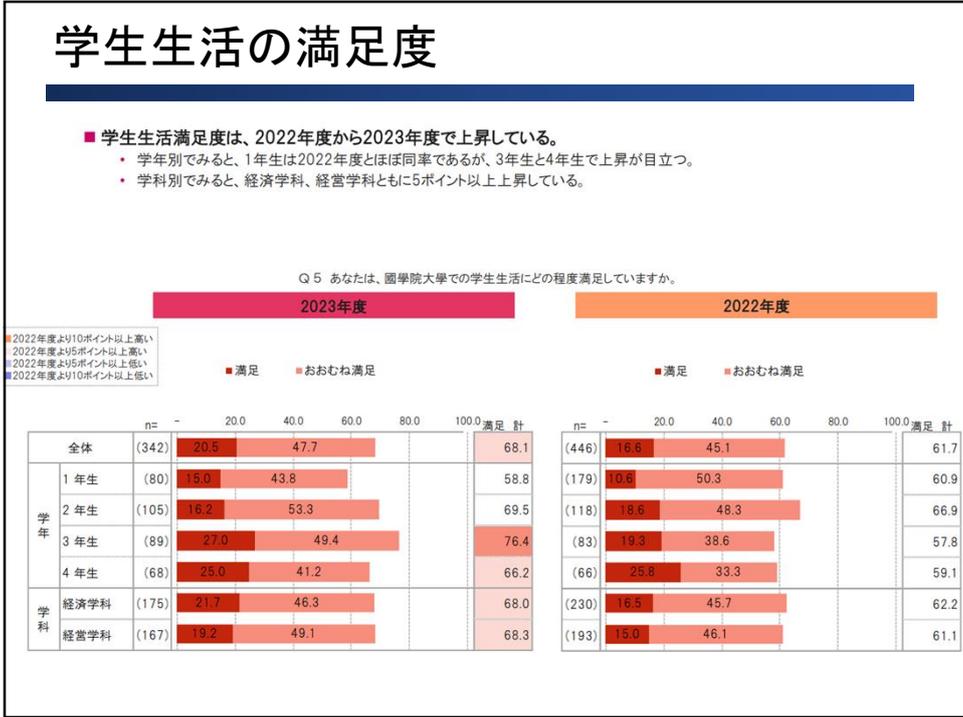


24

# 調査結果

## ④時系列分析

25



26

## カリキュラム全体の満足度

- カリキュラム満足度は、2022年度から上昇している。
  - ・ 学年別で見ると、1年生は2022年度とほぼ同率であるが、3年生と4年生で10ポイント以上上昇。
  - ・ 学科別で見ると、経営学科で5ポイント以上上昇している。

Q 6 あなたの経済学部のカリキュラムについて、全体としてどのように思いますか。



27

## 授業科目の個別の満足度

- 全体の授業科目の個別満足度は、経済学部の専門英語科目が2022年度より5ポイント以上上昇している。

Q 8 あなたは、以下の授業について、どの程度満足していますか。



28

# 学習目標の達成度

■ 学習目標の達成度は、2022年度より上昇している。特に3年生と4年生で上昇が大きい。

Q 11 あなたは、これまで履修した授業について学習目標を達成できていると思いますか。



29

## 考察

30

## まとめと展望

本事業を通して、科目群別による満足度、授業評価で重視する項目と学習達成度、新カリキュラムの科目構成に関する評価、時系列分析などを行うことができた意義は大きい。

新カリキュラムの導入にあたって、専門教育の英語、アクティブラーニング、キャリア科目を充実させたが、これらの教育効果も総合的に把握することができた。科目によっては、学生の学びと満足度が低い内容もあり、その実態を精査することで次年度以降に修正等の対応をしていきたい。

25

31

## まとめと展望

アンケートでは、経済学部専門科目に関する項目のみならず、グループワークや専門演習にかんする満足度にかんする結果などについても項目を設けていた。さらに、専門演習に加入している学生の満足度が高い結果が出ており、こうした実態は学部学科を超えたカリキュラムに活かしていくことが可能であると考えられる。

本年度得た知見を学部で共有するとともに、これを次年度以降の改善に活用していきたい。

25

32

以上で経済学部<sup>1</sup>の成果報告を終了します。  
ご清聴ありがとうございました。

本報告書の作成にあたり、業務委託先の報告書資料を一部利用させていただきました。